

TLP:CLEAR

2025 年度
第 1 四半期レポート

2025 年 7 月 18 日

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

目次

【第 1 章】 運営委員会からの活動報告	3
1. 定時総会（会員総会・社員総会）	3
1) セミナー	3
2) 総会／懇親会	3
2. 2025 年度第 1 四半期に入会いただいた新規会員	3
【第 2 章】 SOC からの活動報告	4
1. SOC 組織体制	4
2. 2025 年度 第 1 四半期の概要	5
1) 脅威・脆弱性情報の報告件数	5
2) 脅威・脆弱性情報レベル	6
【第 3 章】 技術委員会からの活動報告	7
1. はじめに	7
2. 2025 年度活動計画と実績報告	8
1) 2025 年度活動計画	8
2) 技術委員会活動成果物	8
3. 【トピック報告】 第 5 回活動報告会（2025/5/29 開催）	9
1) 目的・背景	9
2) 内容	9
【第 4 章】 CSECC からの活動報告	10
1. はじめに	10
2. CSECC 組織体制	10
3. CSECC の取組みと活動計画	11
4. 【トピック報告】 第 5 回活動報告会（2025/5/29 開催）	12
1) 目的・背景	12
2) 内容	12

【第1章】運営委員会からの活動報告

1. 定時総会（会員総会・社員総会）

2025年6月20日に、品川フロントビルB1F会議室およびTeamsを用いて第9回定時総会を実施しました。前半はセミナー、後半は総会（+懇親会）の構成で開催しました。

1) セミナー

当法人賛助会員・パートナー会員に登壇いただき、車のサイバーセキュリティに関する幅広いテーマでセミナーを開催しました。延べ参加者数：206名（会場参加81名／Teams参加125名）

2) 総会／懇親会

社員総会では運営委員会をはじめ、各活動の実績と今後の取組を中心に説明し、議案を審議いただき、可決されました。その後の懇親会では、業務の中では接する機会のない会員同士が親睦を深める、充実した時間となりました。総会参加者数：166名（会場参加80名／Teams参加86名）



総会 「2025年度方針説明」 運営委員会 平林委員長



懇親会 （参加者 74名）

2. 2025年度第1四半期に入会いただいた新規会員

新規入会会員

- ・OEM会員 ヤンマーホールディングス株式会社
- ・関係会社会員 株式会社オートネットワーク技術研究所

※2025年6月30日時点の会員数：118社+学術会員2名

【第2章】SOCからの活動報告

1. SOC組織体制

2025年度のSOC組織体制を図1に示します。

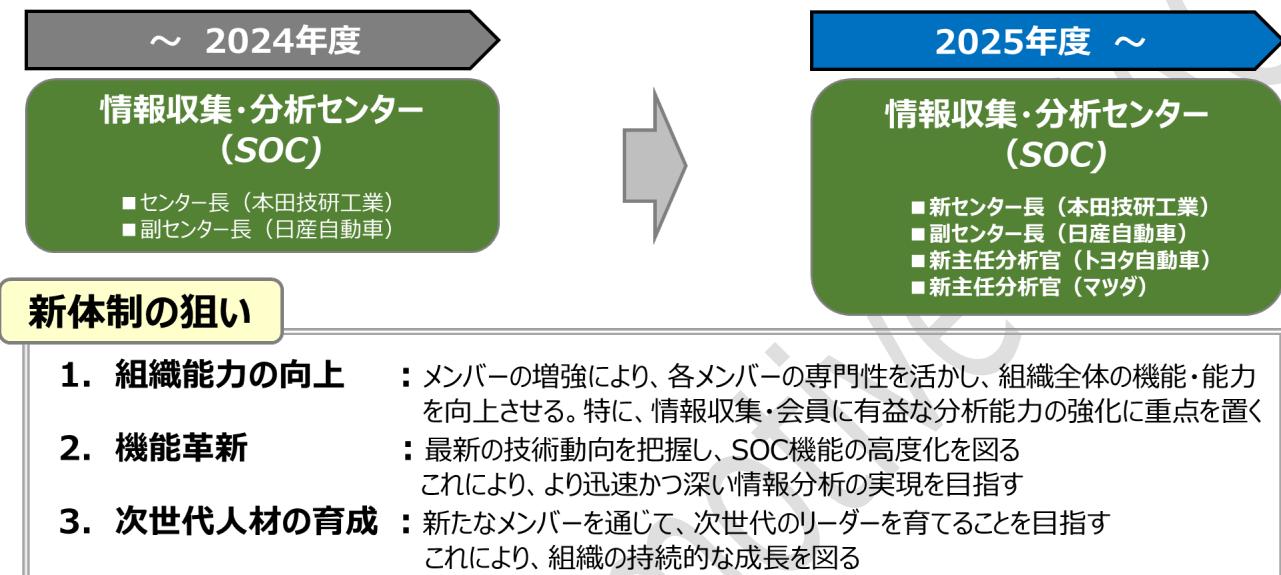


図1 SOC組織体制

従来のセンター長、副センター長2名に加え、新たに主任分析官2名を迎え、4名体制とすることで組織全体の活性化と活動の底上げを図ってまいります。

2. 2025 年度 第 1 四半期の概要

1) 脅威・脆弱性情報の報告件数

2025 年 4 月から 6 月の 91 日間に提供された週次情報レポートの件数は、合計 95 件でした。

図 2 に内訳を示します。

脅威・脆弱性情報の報告件数は、2024 年度第 4 四半期と比較するとわずかに増加しています。なお、車両に関連する新たな重大な脅威・脆弱性情報及びインシデントの発生はありませんでした。

- | | |
|------------|------|
| ① 脅威・脆弱性情報 | 60 件 |
| ② 業界動向情報 | 35 件 |

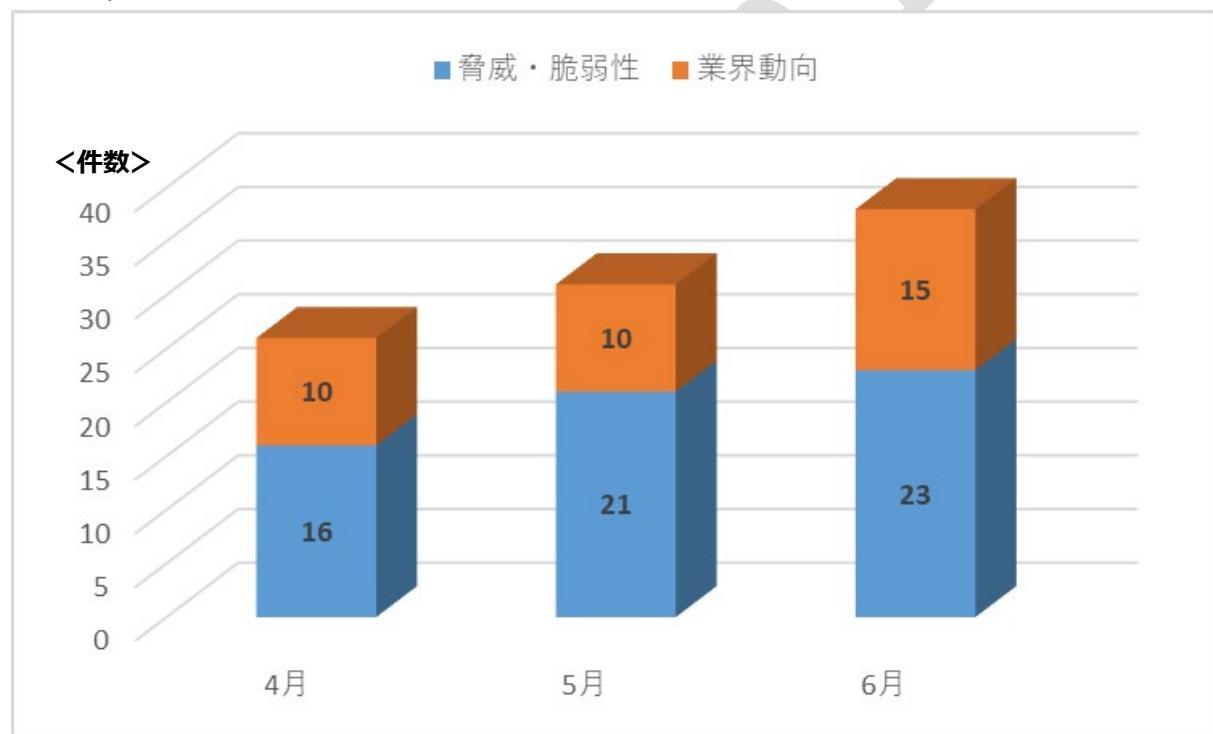


図 2 週次情報レポート 提供件数

※脅威・脆弱性情報件数は、自動車に関する情報のみであり、かつ同一案件を除く

2) 脅威・脆弱性情報レベル

第1四半期に報告した脅威・脆弱性情報を分類すると、図3のようになります。
 要注意情報の件数は平均で11件/月であり、2024年度第4四半期に比べると同じ件数でした。

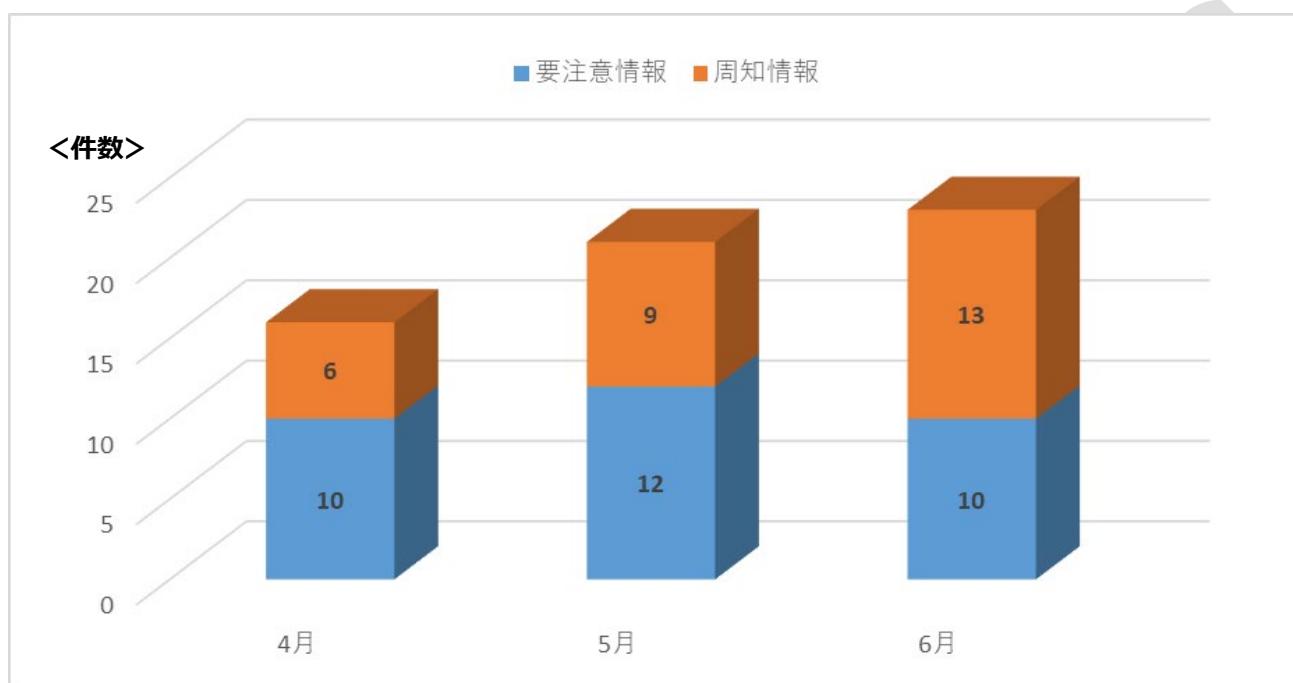


図3 脅威・脆弱性情報 レベル別件数

<参考>

※1.要注 意 情 報 :

自動車への関連性があるが影響度・攻撃可能性が高くない脅威・脆弱性情報

※2.周 知 情 報 :

注意すべきセキュリティニュースなど動向として認識すべき情報

※3.重 大 情 報 :

自動車への関連性があり、かつ影響度・攻撃可能性が高い脅威・脆弱性情報

【第3章】技術委員会からの活動報告

1. はじめに

技術委員会は、2025年4月より図4に示す2WG/6SWG/3TFに再編され、2025年度の計画に沿って活動を推進しています。

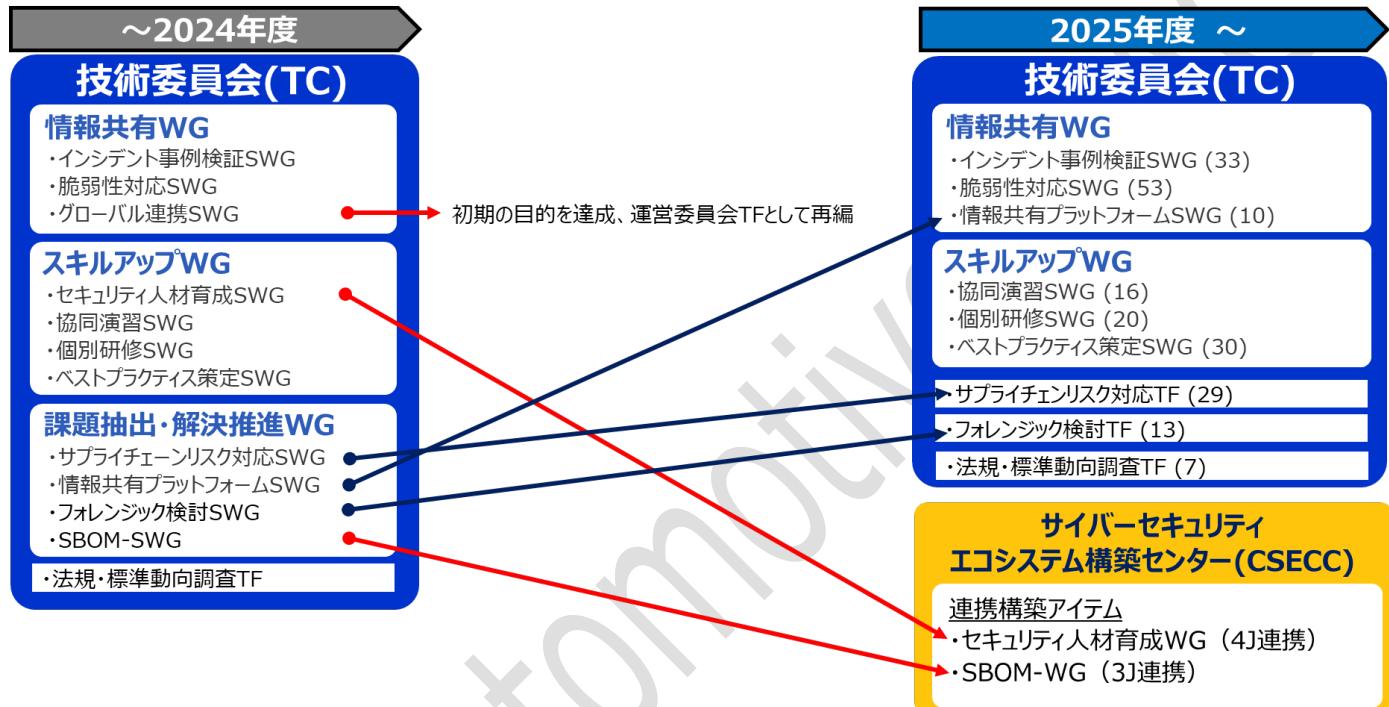


図4 2025年度技術委員会活動体 カッコ内はメンバー数

今回は、その施策の一つである第5回活動報告会を5月29日（木）に実施しているので、その様子を本章のトピックとして報告します。

技術委員会では、活動報告会等を通して各活動における成果に加え、新たな取り組みを紹介することで、会員に価値・魅力を示し参加を促すことで持続的な活動としていきます。

以下に2025年度の活動計画と実績、トピック報告を記載します。

2. 2025 年度活動計画と実績報告

1) 2025 年度活動計画

表 1 2025 年度実施項目

実施項目
1)技術委員会の戦略策定 業界に必要なサイバーセキュリティ対応能力の強化に向けた戦略の策定
2)成果物の発行 技術委員会傘下 6 つの SWG と 3 つの TF 活動を通じて参加会員の活発な意見交換やナレッジ共有を継続すると共に参加各社のサイバーセキュリティ対応能力の強化に貢献出来る成果物の発行

本計画（実施項目）に基づき、具体的な目標と取り組み方策を明確にして実行し、技術委員会活動をさらに発展させていきます。

2) 技術委員会活動成果物

表 2 活動成果物一覧（発行成果物と発行予定）

時期	成果物
2024 年 5 月	・第 5 回活動報告会（各 SWG/TF 活動報告書）
2025 年 6 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#1
2025 年 7 月	・協同演習の開催（@2024.7.23）
2025 年 9 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#2 ・脆弱性分析レポート#1 ・クルマのサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ取り組み(更新) ・ユースケース集(サプライチェンリスク対応 TF) ・協同演習速報
2025 年 12 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#3 ・協同演習レポート
2026 年 1 月	・コネクテッドカーフォレンジックの課題に係る文書
2026 年 2 月	・インシデント事例に基づいた技術レポート#4 ・脆弱性分析レポート#2 ・SWG 版 Car モデル(脆弱性対応 SWG) ・ベストプラクティス解説書

2025 年度も成果物を社内外へ展開します。

3. 【トピック報告】第 5 回活動報告会（2025/5/29 開催）

1) 目的・背景

SWG と TF 活動の成果物、情報の共有を目的に、2023 年度から年間 2 回のイベントとして「技術委員会活動報告会」を開催しています。本年度は、技術委員会 & サイバーセキュリティエコシステム構築センター(CSECC)の合同活動報告会として開催しました。

報告会では、活動全体像と各 SWG の関係性、成果物に関する詳細説明（成果物発表）、更に各 WG/SWG/TF の本年度の活動内容と目標に焦点をあてた構成としました。

第 5 回活動報告会：2025 年 5 月 29 日（木）@品川フロントビル 14F 会議室

2) 内容

（資料については技術委員会、CSECC 参加メンバーには公開中） ★は成果物紹介

- ① 情報共有 WG
- ② インシデント事例検証 SWG★
- ③ 脆弱性対応 SWG★
- ④ 情報共有プラットフォーム SWG
- ⑤ スキルアップ WG
- ⑥ ベストプラクティス策定 SWG★
- ⑦ 個別研修 SWG★
- ⑧ 協同演習 SWG
- ⑨ フォレンジック検討 TF
- ⑩ サプライチェンリスク対応 TF
- ⑪ SBOM-WG★
- ⑫ セキュリティ人材育成 WG★

各報告には 100 名以上が参加し、各活動へ参加中のメンバーに他活動の計画や成果を共有だけでなく、これから本活動に参加しようと考えているメンバーにも活動内容を伝えることができました。

【第4章】CSECCからの活動報告

1. はじめに

2025年度よりサイバーセキュリティエコシステム構築センター（以降、CSECC）としての活動を開始いたしました。CSECCは業界としてのサイバーセキュリティ対応能力を中長期的視野で底上げするため、業界の各団体（JAMA、JSAC、JASPAR、JAPIA、Auto-ISAC、等）と連携して抜けや漏れの無いCS品質向上活動が行われることを目標に掲げております。CSECCの傘下に2つのWGを設置し、業界連携に必要な成果物の策定を行うと共に参加会員企業の皆様の実務レベルでのナレッジ共有と意見交換の場を創り出しております。また参加メンバーの皆様には、協調・連携の精神を理解し、活動に積極的に協力・参加し、会員相互の利益に寄与するとともに、得られたナレッジや共有される成果を各社で活かしてほしいと考えております。

なお今回のレポートでは新組織であるCSECCの概要、及びその活動計画、そして技術委員会と共同開催した第5回活動報告会についてトピックとして報告します。

2. CSECC組織体制

はじめに、CSECCの組織体制と外部連携先について図5に示します。

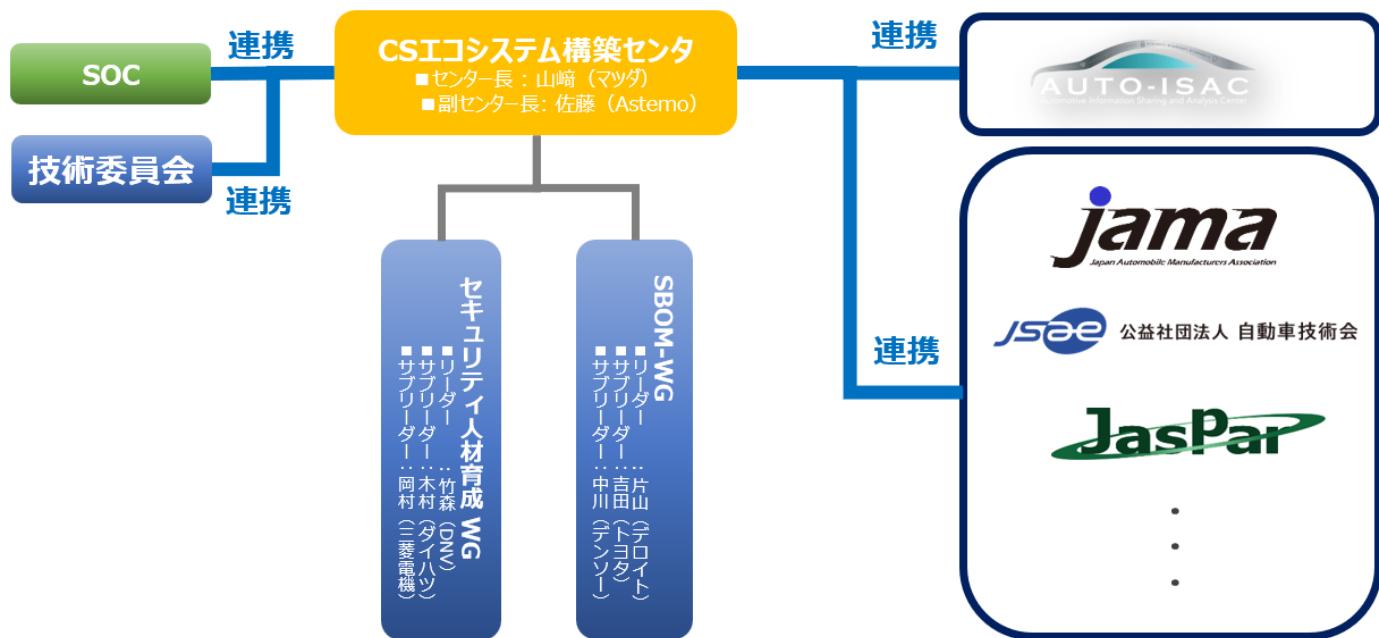


図5 CSECC組織体制と外部連携先

CSECC傘下のSBOM-WGには32社より46名、セキュリティ人材育成WGには21社より23名の方にご参加頂き、業界団体連携活動の推進と成果物の生成を進めています。また連携する主な関係先としては

日本自動車工業会（JAMA）、自動車技術会（JSAE）、JASPARに加え、北米の AUTO-ISAC があります。

3. CSECC の取組みと活動計画

具体的な取組みとしてはまずは SBOM-WG です。SBOM は BOM であるがゆえに、色々な用途があり、そのニーズも多種多様です。当 WG では JAMA、JASPAR との連携を軸に SBOM 活用のスコープやユースケースを共有しながらその活用に資する文書を作成しています。

次にセキュリティ人材育成 WG ではサイバーセキュリティに関するスキルを業界団体が連携して業界として求められる人材を育成していく為のベースとなるスキルマップの策定を今期の取組みとして掲げて、活動しています。

なお、両 WG では活動成果を表 3 に示すタイミングで発行や紹介を行う予定です。

表 3 CSECC 成果物発行予定

予 定	成 果 物
2025年5月	● 第5回TC & CSECC合同活動報告会（各WG活動報告書）
2025年6月	● SBOMガイド（初版）
2025年10月	● Auto-ISAC Cybersecurity Summit2024レポート
2025年12月	● スキルマップ初版 ● 第6回TC & CSECC合同活動報告会（各WG活動報告書）
2026年3月	● SBOM活用のスコープ（ユースケース）（2025年度末） ● スキルマップに基づく教育体系

4. 【トピック報告】第 5 回活動報告会（2025/5/29 開催）

1) 目的・背景

WG／SWG や TF 活動の成果物、情報の共有を目的に、2023 年度から年間 2 回のイベントとして「技術委員会活動報告会」を開催しています。本年度は、技術委員会＆サイバーセキュリティエコシステム構築センター(CSECC)の合同活動報告会として開催しました。

CSECC パートでは、新しくセンターを設置した主旨と活動全体像、及び技術委員会の各活動との関係性を説明。更に SBOM-WG、セキュリティ人材育成 WG の本年度の具体的活動計画、及び成果目標に焦点をあてた報告を実施しました。

2) 内容

(資料については技術委員会、CSECC 参加メンバーへは公開中) ★は成果物紹介

- ① CSECC 活動全体像
- ② SBOM-WG★
- ③ セキュリティ人材育成 WG★

今後 CSECC では、各 WG の議論と成果物を基に、業界の各団体と連携し、自動車業界全体で抜けや漏れの無い活動が行われることを目指して取り組んで行きます。

一般社団法人 Japan Automotive ISAC

E-mail : info@j-auto-isac.or.jp

<https://j-auto-isac.or.jp/>